

みっちゃん通信



**区民のいのちと暮らしを守れ！
来年度予算要望を行いました**

12月2日、日本共産党豊島区議団は高野区長に対して、「2023年度豊島区政の取り組むべき課題と予算編成に関する要望書(第一次)」（536項目）を提出しました。

この間、区議団が懇談してきた各種団体、区民から寄せられた切実な要望をまとめたものです。

あわせて提出した「物価高騰、新型コロナウイルス感染症など緊急・重点対策に関する特別要望書」（44項目）は、区民生活への支援策、保健所体制の強化、生活困窮者への支援策など年末年始を含め、緊急に行うべき内容のものです。



清水みちこ議員は『保護者から給食費の負担が重すぎるとの声が届いている。ま

ず年度内(来年3月まで)の給食費を無償にするなど、子育て世帯の負担を少しでも減らしてほしい』と区長に求めました。

続報！補聴器購入費補助

高齢者の願いに

自民・公明・都民ファは背を向ける！

区民から977名の署名とともに提出された「豊島区の補聴器購入費助成制度の拡充を求める陳情」が区民厚生委員会で審査されましたが、自民、公明、都民ファーストの主張で継続審査となりました。(12月号で既報)

12月6日、最終本会議で清水みちこ議員は討論を行い、「対象が65歳以上の非課税、一人1回限り、上限2万円では足りない」「区の予算は年間わずか2億円」「23区で補聴器補助があるのは16区。2万円は最低額で豊島区を含む4区のみ」

「港区は13万7千円まで、新宿区は自己負担2千円で現物支給で、どちらも再更新は5年に1回」「条件、対象、金額などの拡充を」などと述べました。

討論の最後に改めて、『委員会審査で



どの委員もやった方がいいという意見なのに、なぜ継続となるのか。閉会中の継続審査の末、来年4月の私たち議員の任期が終わったら廃案になってしまっ



『977名もの署名とともに提出された陳情、区民の切実な願いに、なぜ議会として応えられないのか。区も検証、検討をしているのだから、議会として区の後押しをする姿勢をぜひ取りたい。皆さんにもそれをお願いしたい』と、陳情を全会一致で採択するよう呼びかけました。

一方、自民党は陳情内容に理解を示しつつも、区が検討をしているのだから状況を見守ると、継続審査を主張する討論を行いました。

その結果、自民、公明、都民ファーストの賛成多数で陳情は「継続審査」となっていました。

977名もの署名を寄せてくださった方々の願いに背を向けるのは許せません。引き続き実現に向け頑張ります。

また清水議員は、区民から提出された「聴力検査を区民検診の項目に入れる陳情(署名891名)」

の採択を求める討論も行いました。しかし、日本共産党以外のすべての会派が不採択としました。

